

神社の杜(三十四) 御岳ビジターセンター 片柳 茂生  
**大塚山見聞**

神社から北の方を眺めると、レンゲシヨウマで有名になった富士峰が手前に見えます。その左奥にこんもりとした山が見えます。奥にパラボナアンテナが見えますのでどなたにも分ると思います。この山が標高九二〇メートルの大塚山でございます。

富士峰の奥、通称十字路と呼んでおりますが、そこから大塚山に進む道の右側にある小高い山が円塚山、ここは早春のミツバツツジがすばらしい所でございます。かわりまして道の下にも小ピークの山がご覧いただけると存じますが、これを小塚と地元ではそれぞれ呼んでおります。この十字路から更に七〇メートルばかり登りました所が大塚山で、山頂には三等三角点がございます。この山頂には、戦時中、アメリカ軍の空襲に備えるための防空監視哨があったようでございます。それだけこの山からの展望は良かったのでございましょう。この大塚山にはいろいろとおもしろい話が伝わっております。

大塚山、大きな塚という意味でございましょうが、この山は、どなたか名のあるお方のお墓である、というわけでもなさそうです。ただ、その昔、江戸時代よりもっと以前のことでございますが、このあたりには長者屋敷と呼ばれる大きな屋敷があったといわれております。屋敷の跡からは皿や鉢の破片などを掘り出したこともあるとのことでございます。(武蔵名勝図絵) 長者屋敷というからにはかなり大きなお屋敷であったであろうと思われませんが、今、山の周囲をあちこち見て歩きますと、そのような大きな建つ平らな敷

地らしきものは見あたりませんし、近くで水が湧いているところも見あたりません。とてもこんな山奥でしかも水がない場所に人が生活していたとは考えられないのです。また、この長者屋敷は山城の跡だという説もあるのですが定かではありません。大塚山の名の由来は、その長者屋敷のお方が山頂に兵具等を埋めたからともいわれております。また、ある人から聞いたお話では、経筒が埋まっているとおっしゃっております。もしかすると本当にこの山の頂には何かが埋まっているのかもしれない。

それを確かめようとしたのか、またはお宝でも出てくるのではないかと思いい、山頂を掘って確かめようとした人がいたのでしよう。しかしその度に何か災いが起こったようでございます。昔から大塚山の山頂を掘ると、大きな雷が鳴るとか、大雨が降るとか、祟りがあるとかいわれております。もしこれをお読みなられた方で勇気がございましたら一度掘ってみてはいかがでしょう。できれば御岳山が水不足で苦しんでいる時期を見計らって、掘っていただければ幸いです。



表紙写真 鈴木 新吾

日の出祭

山伏の入峰儀式が発祥とされ、お供として行列に供奉される方や鑑武者・稚児を募集しております。

五月七日 宵宮 午後八時  
 五月八日 本祭・行列出発

午前十時(登山鉄道御岳山駅前広場)  
 詳しくはお問い合わせ下さい。

あ と が き

卒園式の練習をする園児の歌声に「人を信じて傷ついても、疑いながら生きるよりいい」との様な詞がございました。国の明るい未来を期待をする以前に、それを担う子供達に私達一人一人はどの様な背中をみせているのでしょうか? つたない澄んだ歌声の中、一層と考えを深めました。立川日の出講講元の伊藤様、玉川寿講講元の小池様、ビジターセンター片柳様には、玉稿をありがとうございました。

平成二十二年三月八日発行  
 [年二回発行・非売品]  
 編集 武蔵御嶽神社  
 TEL(0424) 761 8500  
 FAX(0424) 761 9711  
<http://www.musashinotakejinja.jp/>  
 印刷 (株)成和印刷